

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な生活背景と学習面を含む様々な課題を抱えた生徒一人ひとりにしっかりと寄り添い、自らの力で進路を切り拓いていく生徒の育成に取り組む。
ユネスコスクールとしての活動やコース制、学校独自教科や総合的な学習の時間等を効果的に活用し、卒業後に一人前の大人として経済的自立・社会的自立・精神的自立を果たせるように支援する学校をめざす。そのために、学力向上・キャリア教育・人権教育（自尊感情や人間関係力の育成を含む）・国際理解教育・規範意識の醸成などに取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力向上の取組み～自立の基本となるもの

- (1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図るため、教養Aの内容を生徒実態に合わせ改善する。
(2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。
ア 学ぶ意欲を育むため、わかる授業を全教科で創造していく。また、生徒の実態に即して、少人数展開授業や習熟度別授業などの効果的な活用を図る。
イ 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに教員一人ひとりの授業力を向上させる。
※学校教育自己診断（生徒）の授業に関する項目の肯定的意見の割合を前年度以上（66%）とする。

2 系統的なキャリア教育の展開～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

- (1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」（以下「FC」）・教養A・教養B・教養体験・教養Cの内容を整理し、系統的な学習を推進する。
(2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募したり、新しい授業内容に取り組むことで、進路実現につなげる。
(3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。
※進路未決定率ゼロを維持し、学校教育自己診断（生徒）のキャリア教育に関する項目の肯定的意見の割合を前年度以上（61%）とする。

3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り～特に社会的自立・精神的自立に関わるもの

- (1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。
ア アサーショントレーニング・アンガーマネジメントなどのコミュニケーション力育成とESD教育を推進する。
(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
イ 部活動の活性化・充実をはかり、加入率を高める。
※部活動加入率を前年度以上とする。

4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。
ア 遅刻指導を強化し基本的生活習慣の確立を期するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
イ 頭髪指導の徹底を図り、自転車の二人乗りをなくすなどの取組みを強め、地域に信頼される学校を確立する。
(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。
ア 生徒の複雑な生活背景をつかむ取組みを進める。家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成及び充実を図る。
(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり
ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。
イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させる。
ウ 広報活動を活発に行い、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
※中退率・生徒指導案件数を前年度以下（生徒指導案件数 114 件）とする。

5 教職員の資質向上とOJTの充実

- (1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。
(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。
(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、新校移行に伴うICT化を踏まえて、教職員のICT活用能力を高める。
※研究授業・公開授業の回数・参加率を前年度以上（各教科1回、初任者1回、参加率100%）とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「中期的目標 1 確かな学力向上の取組み」に関わる観点から以下の項目の肯定的意見を検証した。</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 65%（昨年度比 1 p 減）。 保護者 69%（昨年度比 11 p 増）。</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 68%（昨年度比増減なし）。 保護者 60%（昨年度比 5 p 増）。</p> <p>一方、教員自身は「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」が肯定的意見 94%（昨年度比増減なし）、「生徒の実態を踏まえ教科として指導方法や学習形態の工夫改善を行っている」が同 92%（昨年度比 2 p 増）となっている。</p> <p>授業に関しての生徒・教員の肯定的意見の割合が定着し、保護</p>	<p>【第 1 回 6 月 10 日開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率向上のために、ダンス同好会を立ち上げたらどうか。 部活動の楽しさをアピールしているのはすごく良い。 今後、電子黒板や ICT 機器などが導入されるようだが、進んで活用しようとする先生が多いので楽しみだ。機械を入れたのはよいが活用されていない学校があるというのを聞くが、北淀高校ではこれまでも十分に活用されているようだ。 中高連携は大切だと思う。 <p>【第 2 回 10 月 28 日開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭の応援団について、生徒に見せる形でいいけれども、本部席や PTA 席の方も向いての演技も見せてほしい。 北淀高校の先生が懸命に指導されていること、先生方の負担が大きいことを感じた。 自分が校長であった時も、初任者、転任者の育成には苦勞した。北淀高校には力の

府立北淀高等学校

者の肯定的意見が増加している。授業力向上のために本年度も実施している「授業アンケートの実施→個人での分析・教科ごとの分析結果の共有」や、「授業見学・研修」などから、教員の授業力向上への「努力・工夫」の成果が出てきたと考えている。ただし、教員の努力と生徒の受け止めにギャップがあることから、生徒の学習状況の実態把握、授業の工夫と質の向上いっそう進めることが必要であるとする。

【進路指導等】

○「中期的目標 2 系統的なキャリア教育の展開」に関わる進路指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」

生徒 66% (昨年度比 2 p 減)。

保護者 81% (昨年度比 7 p 減)。

「学校は進路についての情報を知らせてくれる」

生徒 71% (昨年度比 1 p 減)。

保護者 81% (昨年度比 10 p 減)。

「将来の進路について学ぶ機会があり熱心に指導している」

生徒 61% (昨年度比増減なし)。

一方、教員自身も「生徒一人ひとりが興味関心適性に応じて進路選択が出来るようきめ細かい情報提供を行っている」が 87% (昨年度比 10 p 増) となっている。教員は努力していると考えているが、特に保護者の肯定的意見は減少している。今後も、生徒が満足できるよう全ての項目で 80% を越えるキャリア教育の取組みを進め、保護者との連携をいっそう進める必要がある。

【生徒指導等】

○「中期的目標 3・4 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り、規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進」に関わる生徒指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「北淀高校に入学してよかった」生徒 74% (昨年度比 1 p 減)。

保護者 87% (昨年度比 4 p 減)。

「学校に行くのが楽しい」生徒 61% (昨年度比 1 p 減)。

保護者 70% (昨年度比 2 p 増)。

「いじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」

生徒 69% (昨年度比 1 p 減)。

保護者 74% (昨年度比 5 p 増)。

「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」

生徒 57% (昨年度比 1 p 減)。

保護者 60% (昨年度比 3 p 増)。

「国際理解・国際交流について学習する機会がある」

生徒 61% (昨年度比 2 p 増)。

保護者 51% (昨年度比 15 p 減)。

「部活動に積極的に参加」生徒 42% (昨年度比 2 p 増)。

保護者 32% (昨年度比 3 p 減)。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」

生徒 66% (昨年度比 3 p 増)。

保護者 63% (昨年度比 8 p 減)。

昨年度とほぼ同様の結果となったが、生徒に寄り添う部分（「困っている事に真剣に対応」「気軽に相談できる先生がいる」）がまだまだ低く、より丁寧な指導が求められている。また「国際理解教育」については、保護者の肯定的意見が減少しており、学校の取組みの積極的発信が求められている。部活動について、肯定的意見はほぼ変わらないが、実際の部活動参加率は 20.8% と昨年度より減っている。積極的な参加が弱く、より取組みの工夫が求められる。

【その他】

○昨年と肯定的意見の割合を比較すると、生徒は昨年度より上がっている項目は (24 項目中 10 項目)、保護者は (25 項目中 12 項目)。教員は (24 項目中 11 項目) であった。数値の下がった項目については、一概に取組みが停滞しているとも言えないが、各分掌・学年・委員会・教科等において確認し、必要に応じて改善に向けて取り組んでいる必要がある。

ある初任者が配属されていると感じる。他校からの転勤者には、前任校の経験のうち良いものを活かしてもらいつつ、本校の生徒になじまないものをそぎ落としてもらうことが大切である。

・新校開校は大きなチャンス。この機会を活かしてほしい。北淀高校の良さは「寄り添う指導力」「わかりやすい授業」である。この良さを新校のカリキュラムに活かしてほしい。新しいカリキュラムを検討するにあたり、教科の内容だけでなく、応援団の取り組み、学年担任室、日々の声かけのあり方といったものも学校のカリキュラムである。こうしたものもぜひ継承していってもらいたい。小学校、中学校の厳しい状況の話もあったが、高校は子どもにとってのアンカー。府立高校の使命は、「しんどい」子どもを何とか育てあげることだと考える。

【第 3 回 2 月 3 日開催】

- ・生徒指導で、生徒と教員の理解に違いがあるようだ。真面目に学校生活を送っている生徒にも、学校は厳しく指導していると理解させることが必要ではないか。
- ・教員の指導が昔に比べやわらかくなってきているように感じる。もっと厳しく指導してもいいのではないか。
- ・学年間で生徒の雰囲気の違いがあつて、指導を分けるのは大変だろうと思う。来年度は北淀高等学校と淀川清流高等学校という別の学校と一緒に行事などをするにあたり、うまく指導を分けるのは大変だと思う。頑張ってください。
- ・エンパワメントスクール（淀川清流高等学校）の授業は分かりやすい授業をされると思う。北淀高等学校の生徒にも分かりやすい授業が必要だと思う。
- ・どの学校も PTA 活動に悩みがあるようだ。文化祭など行事を通して学校に集まっていただくのがポイント。行事があると保護者の協力を得るきっかけになる。
- ・PTA 行事を見直すことが必要だ。
- ・クラブ参加率が低迷している。ダンス同好会を作ってはどうか。
- ・視聴覚室を二重サッシにして防音を図り、吹奏楽部をつくってはどうか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（ ）内は28年度	自己評価
1 確かな学力向上の取組み／自立の基本となるもの	<p>(1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図るため、教養Aの内容を生徒実態に合わせ改善する。</p> <p>(2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。</p>	<p>(1) ・生徒実態に合うように教養Aの改善を教養科全体で取り組む。その際、キャリア教育の視点からFCとの連携及び新校のカリキュラムを意識して検討する。</p> <p>(2) ア わかる授業の創造 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づける。その上で、1回目のアンケート後に教科毎の公開授業と研究協議を実施。2回目のアンケート結果をもとに成果と課題を確認。3学期早々の職員会議で全体で共有する。 イ 少数展開授業や習熟度別授業の活用 ・生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、習熟度別授業、少数展開授業、ティームティーチングのさらなる充実を図る。 ウ 生徒実態に合わせた学習支援 ・進学意欲の高い生徒に対して、1年時より長期休業前等に特別講習を実施する。 ・生徒の学習習慣の確立に向けて、進路資料室を改修し、生徒が放課後に校内で学習できる場として整備し、活用する。</p>	<p>(1) ・授業アンケート及び学校教育自己診断において、教養Aに対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(授業アンケ3.07、自己診断65%)</p> <p>(2) ア・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(授業アンケ3.22、自己診断66%) イ・授業アンケートにおいて、実施教科・科目の授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(英語:2.97・数学:3.06) ・計画通りに実施できたか。 ウ・進学講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。(1年7時間延21名、2年7時間延31名、3年13時間23名) ・生徒が放課後に校内で学習できる場の整備に進展があったか。また、適切に活用できたか。</p>	<p>(1) ・授業アンケートは3.05、学校教育自己診断では67%とほぼ横ばいであった。今年度、生徒指導に追われ、教養Aの改善が十分に出来なかった影響がある。(△)</p> <p>(2) ア・授業アンケート結果は3.21、学校教育自己診断では65%と、わずかながら前年度を下回った。新校開校を控えよりわかりやすい授業の創造に努めていきたい。(△) イ・授業アンケート結果は英語3.15、数学3.10と上がった。少数展開や習熟度別の成果が表れている。(◎) ウ・進学講習については、1年16時間延44人、2年9時間延46人、3年54時間延58人と増えている。進学に意欲を持って取り組む生徒のモチベーションを引き続き後押ししていきたい。(◎) ・新校開校に合わせ、クリエイトルーム、キャリアガイダンスルーム、ヘルスサポートルームを整備。また、1年各教室に電子黒板を整備した。(◎)</p>
2 特に経済的自立・社会的自立に関わるもの 系統的なキャリア教育の展開	<p>(1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)・教養の内容を検討し、系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募することで、進路実現につなげる。</p> <p>(3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。</p>	<p>(1) ア キャリア教育の再構成 キャリア教育の内容をFCと教養の授業に反映させ、新校のカリキュラムを意識して取り組む。</p> <p>(2) イ 造形コースの工夫改善 ・専門コース「造形」がより生徒の期待に応えるものとなるように、また新校の系列選択につながるよう授業内容等のさらなる充実を図る。 ・学外での美術工芸展に積極的に応募する。</p> <p>(3) ウ 情報コースの工夫改善 ・専門コース「情報」がより生徒の期待に応えるものとなるように、また新校の系列選択につながるよう授業内容等のさらなる充実を図る。 ・各種検定受験者数や合格率の向上を図る。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(項目25:61%)</p> <p>(2) イ・授業アンケートにおいて、造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.36) ・学外での美術工芸展への応募数が前年度を上回ったか。(91件)</p> <p>(3) ウ・授業アンケートにおいて、情報コースの生徒の「情報」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.34) ・各種検定受験者数、合格率が前年度を上回ったか。(受験者数100名、合格率89.3%)</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断においては、肯定的な回答が61%と前年度比増減なしであった。新校開校を控えキャリア教育のいっそうの取組みに努めていきたい。(△)</p> <p>(2) イ・授業アンケート結果は3.36と、昨年度比増減なしであった。高い肯定率を維持しているが、ひきつづき充実を努め、新校の系列の特色ある選択科目に引き継いでいきたい。(○) ・学外での美術工芸展の応募数は62件と減少した。例年実施されていた外部の美術工芸展が2つ中止となったことが影響した。生徒の発表機会を増やす方法を模索していきたい。(△)</p> <p>(3) ウ・授業アンケート結果は3.20と減少した。教科において改善に努め、新校の系列の特色ある選択科目に引き継いでいきたい。(△) ・各種検定受験者数は90名、合格率85.6%と昨年より微減した。検定料の負担が厳しい生徒が増加したことも背景にあるが、引き続き意欲の掘り起こしに努めていく。(△)</p>

府立北淀高等学校

<p>3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り〜特に社会的自立・精神的自立に関わるもの</p>	<p>(1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1) 人権教育・国際理解教育の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーショントレーニングなどのコミュニケーション能力育成の取組みを行う。 ・障がい者との交流、JICA講演、留学生交流などを実施する。 ・アンガーマネジメントやネットリテラシー、虐待から考える性教育など、新たな人権教育の取組みを創造する。 <p>(2)</p> <p>ア・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組を増やすなど、体育祭、文化発表会等の学校行事のさらなる充実を図る。</p> <p>イ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会をさらに充実させたり、4月に入部し損ねた生徒が入部しやすい機会を設けたりするとともに、部活動を行うことのメリットを伝える機会を新たに設ける。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断において、「人権教育」「国際理解教育」の項目の肯定的評価が前年度を上回ったか。(人権 64%、国際理解 59%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」が前年度を下回ったか。(計 28 件) <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断において、学校行事の満足度が前年度を上回ったか。(自己診断 63%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に更なる工夫改善を行えたか。 <p>イ・部活動加入率が前年度より上回ったか。(23.4%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入増に向けた更なる工夫改善を行えたか。 	<p>(1)</p> <p>ア・人権教育は 65%、国際理解教育は 61% で昨年より微増した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案は 28 件で、昨年度と同様であった。減らすことが出来なかったことを受け止め、総合的な学習の時間等の内容を検討する必要がある。(○) <p>(2)</p> <p>ア・学校行事の満足度は 67%と増加した(○)。体育祭の団対抗、文化祭のコンクール形式の定着による盛り上がりが生徒に活動の充実をもたらしていると考えられる。</p> <p>イ・部活動加入率は、20.8%と前年より減少した。1年生に学外での遊興に興味が高い生徒が多かったのが影響している。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入増に向け、新入生歓迎会の部活動紹介は、生徒たちが生き生きと自分たちの活動を紹介できたが、部活動加入率の増加にはつながらなかった。(○)
<p>4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進</p>	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。</p> <p>(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 頭髪指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の頭髪指導を継続し、さらに指導の定着を図る。 <p>イ 通学マナーの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 <p>ウ 遅刻指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全校を挙げて遅刻指導の徹底と定着を図るが、指導方法についてはより効率の良い改善を行う。 <p>エ 挨拶指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。また、挨拶についての新たな取組を検討、実施する。 <p>(2)</p> <p>ア 生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での組織的連携、家庭・中学校とのさらなる連携を進め、また、教育相談室や保健室での生徒への丁寧な対応を通して、生徒が教育相談をさらに有効活用できるように教育相談体制を充実させる。 ・精神科医師や大学の先生との事例検討会等を通して、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 	<p>(1)</p> <p>ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒の数が前年度を下回ったか。(48 件)</p> <p>イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が前年度より減少したか。(52 件)</p> <p>ウ・遅刻総数が前年度を下回ったか。同時に欠席総数も前年度を下回ったか。(遅刻総数 15132 件、欠席総数 12946 回)</p> <p>エ・学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的意識が前年度を上回ったか。(63%)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談連絡会、支援委員会を通して充実した生徒支援の論議が出来たか。 <p>・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が生徒・教員ともに前年度を上回ったか。(生徒項目 6 : 70%、項目 7 : 58%、教員項目 6 : 97%、項目 7 : 75%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒は 82 件であった。今年度の 1 年生に対し、より厳しい水準で指導を行った結果と受け止めている。引き続き指導をすすめたい(△)</p> <p>イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数は昨年より増加し、60 件であった。今年の 1 年生が中学時代より校区を越えて交友しており、学外でたむろする癖がなかなか抜けずに指導に時間がかかった。1 学期から 2 学期にかけ、校外指導、HR での指導を重ね、2 学期以降は減少している。(△)</p> <p>ウ・遅刻総数は 16415 件と微増、欠席総数は 12317 件と微減した。遅刻の増加は、前学期の指導を引き継いでより丁寧に指導することとしたため、欠席総数増は長欠生徒の増加のためと考えられる。(△)</p> <p>エ・学校教育自己診断における、挨拶に対する生徒の肯定的意識は 62%と微減した。引き続き、呼びかけを強めていきたい。(△)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種連携については、校内での情報共有と論議を踏まえ、中学校との情報共有や、行政機関、病院等との連携が深まり、生徒支援に活かされている。また、居場所事業を含めて拡充した教育相談体制を活かし、個別の学習や心理面の支援を充実させることができた。(○) ・学校教育自己診断における教育相談に対する肯定的な回答は、生徒については項目 6 が 69%、項目 7 が 57%と微減、教員については項目 6 が 97%、項目 7 が 87%と増加した。生徒層の変化を踏まえ、今まで以上に丁寧な相談活動に取り組んでいく必要がある。(△)

府立北淀高等学校

	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団、特に1年担任団と管理職、他の組織との連携を一層深めるとともに、家庭との連携、外部機関との連携をさらに図り、SSWやSCの活用も通してさらにきめ細やかな指導を行う。 ・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中退者数が前年度を下回ったか。(28年54名) ・校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保に効果が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中退者は32人と昨年度を下回った。ただ、転学者も多く、学校定着は依然として課題である。なお今年度、学習や生活背景に困難のある1年生が多く、1年生の中退は最も多い。引き続き、きめ細やかな対応に努めていく必要がある。(○) ・研修日程、内容の見直しを行い、生徒と向き合う時間を増やすことができたが、まだまだ超過勤務も多い状態が続いている。(○)
<p>(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり オ、PTA活動の推進と家庭との協力体制の充実 カ、広報活動の充実</p>	<p>(3) ア 地域連携 ・生徒、教職員、PTAが協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。フォークソング部、和太鼓部、ボランティア部等を中心に高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流活動を促進する。</p> <p>イ PTA活動 ・PTA活動を積極的に展開し、より広範な家庭連携を構築する。</p> <p>ウ 広報活動 ・北淀高校の伝統を踏まえた新校の良さをアピールできるよう広報活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>(3) ア・地域清掃の参加人数が前年度を上回ったか。(2回延140名)</p> <p>・部活動の地域交流の取組み回数が前年度を上回ったか。(和太鼓部6回、フォークソング部10回、文化健康部1回、茶華道部3回、計20回)</p> <p>イ・PTA活動における学校行事の保護者の参加数が前年度を上回ったか。(200名)</p> <p>・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答が前年度を上回ったか。(69%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断において、「教育情報の発信に力を入れている」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(74%)</p> <p>・オープンスクールの総参加人数が昨年度を上回ったか。(298名)</p>	<p>(3) ア・地域清掃の参加人数は2回で112名であった。2回目が雨天で1年のLHRとも重なり、参加者が減ったことが影響した。1回目だけなら80名が参加していたので、天候と参加しやすい体制作りが上手く噛み合えば、前年以上の参加は可能と考える。(△)</p> <p>・部活動の地域交流の取組については、和太鼓部5回、フォークソング部8回、文化健康部2回、計15回であった。引き続き、地域交流を促進していきたい。(△)</p> <p>イ・PTA活動における学校行事に参加した保護者の数はおよそ290名で、昨年をかなり上回った。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答は61%と減少した。PTA活動の内容を検討していきたい。(△)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「教育情報の発信に力を入れている」に肯定的な回答は76%と微増した。(○)</p> <p>・オープンスクールの総参加人数は、509名と激増した。新校への関心を受け、広報活動において、広い情報発信、丁寧な対応を進めることができた。(◎)</p>
<p>5 教職員の資質向上とOJTの充実</p> <p>(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。 (2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方針が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。</p>	<p>ア・教育センターの研修なども利用し、ミドルリーダーの育成に努める。</p> <p>イ・首席等を活用し、初任者等の教職経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。また、授業改善のために、教科毎の授業見学・改善の取組みの中で、特に初任者の育成に配慮をする。</p> <p>ウ・管理職の丁寧な授業見学助言指導及び教職員相互のブレインストーミング等を活用した研修など、新転任の教員等に対して、OJTを中心とした取組みを計画的・組織的に実施する。</p> <p>エ・校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。</p> <p>オ・新校移行に伴うICT化を踏まえて、教職員の授業におけるICT活用率を上昇させる。</p>	<p>ア・外部研修等を積極的に活用し、首席等につながる人材を育成できたか。</p> <p>イ・初任者の授業改善につながる授業分析や指導助言を複数回実施できたか。</p> <p>・初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施できたか。</p> <p>・初任者等教職経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果(項目3～9の平均)が4点満点中2.8を上回ったか。</p> <p>ウ・計画的組織的に研修を実施できたか。</p> <p>エ・学校教育自己診断において、校務処理システム等の活用が校務の効率化に役立っているとする教職員の回答が前年度を上回ったか。(65%)</p> <p>オ・ICT機器を活用する教員の割合が60%以上となったか。</p>	<p>ア・外部研修等には、若手を中心に積極的な参加ができています。府の高校再編整備のプロジェクトチームで、若手がどんどん成長していると感じている。(◎)</p> <p>イ・初任者は無論のこと、全教員への授業アンケート及び授業見学の振り返りができています。(○)</p> <p>・初任者の校内研究授業、研究協議を2回実施した。(○)</p> <p>・初任者の授業アンケートの3～9の平均値は3.04であった。(○)</p> <p>ウ・校内研修については、計画的に各分掌が進めることができた。初任者に対しては、首席が中心となって、回数、内容を大幅に増やした計画的な研修を実施することができた。(◎)</p> <p>エ・校務処理システムは導入から一定の時間が経ち、成績処理や出欠の共有を効率的に行えるようになり、不可欠のインフラであると大多数の職員が感じている。(○)</p> <p>オ・ほぼ毎回の授業で使用する教員が24%、必要に応じて毎学期使用する教員を入れると66%、年間で数回は使用する教員まで入れると85%が活用している。(◎)</p>